

趣味など建築以外をテーマにしたサロンです。営業をするために部屋を設けたのではありません。

というのもPESは営業をしない会社なのです。サロンの場だけでなく、それ以外の場でも営業は一切してきませんでした。ですから営業担当者を置いていなくて、「仕事を下さい」とお願いに行ったことは一度もありません。にもかかわらず、設備設計だけでなく「いろいろな」「変わった」「おもしろい」仕事をしてくれる事務所という評判が口コミで広がり、突然に電話がかかってくるようになりました。

所員は10人程度の小さな組織ですが、秋田、群馬、長野、静岡、愛知、三重、岐阜、福井、大阪、兵庫、岡山、広島、熊本、鹿児島、さらにはインドと時に応じ所員の出身地は異なっていました。いろんな会話ができ、活気につながります。育った所が違えば考え方も違ってきますから、会社として多様な考え方ができるようになるものです。これもPESの強みといえます。

思想でつながった支援者

50周年を迎える数年前に、所員と一緒に手相と人相をみていただきました。すると、とても珍しく個性的な線があるというのです。「生命線の横に両手ともあなたを支えてくれる人がいる線がある。だからあなたの会社は大丈夫です」と占っていただきました。

確かにこれまで多くの人に支えられてきました。この人がいなくなったら間違いなくPESは消滅していたというほど、懸命に助けてくれた方もいます。

支援していただいた方を思いつくままに挙げただけでも、日本楽器製造（ヤマハ）の酒本員利氏、愛知県の谷口利明氏、名古屋市の宮下蕉風氏、株主として経営を支えてくれた浅井充彦氏、荒木製作所の荒木徹社長、愛知県議員の長谷川武先生、

鳥取大学の鈴木豊彦先生、愛知工業大学の成瀬治興先生、COP3京都会議の議長を務められた大木浩先生と先生の秘書だった名古屋市議員の桜井治幸氏、建築家の村瀬卯一先生、トヨタ自動車の中坂利夫氏、田中勝男氏、東邦ガスの大嶽恒雄氏、ワシントンホテルの野澤商策社長、四万十いやしの里プロジェクトと一緒に仕事させていただいたJR四国の八木英夫氏、中村市の長尾亮一氏、宇和島ステーション開発の東矢英二氏、ダイキン工業の峯野義博氏、RIA建築総合研究所（現RIA）の久米幸一名古屋支社長、クボタトレーン（現クボタ空調）の大北一夫社長、荒川雄行氏、リコーロジスティクスの河路鎰夫社長らがすぐに思い浮かびます。

こうした支援者とはビジネスによって繋がっているのではなく、思想を共有することによって結ばれた関係です。

昭和49年、36歳の時から20数年間にわたって、愛知工業大学建築学科で非常勤講師を務めさせていただきました。建築設備は日進月歩ですから、教科書の情報はすぐに古くなってしまいます。学生には『墓石（古い教科書）を抱いて講義する気はない』と宣言していました。幸いに海外によく出掛けていたので、海外の最新設備技術情報に触れる機会に恵まれていたと思います。その情報をもとに講義させていただきました。

講義では、教壇に立って高い場所から上から目線で講義するようなことはせず、彼らの目線で話すことに努めました。『出たい人だけ出ればいい』というように、少し突き放したような講義でしたが、割と人気があったと受け止めています。卒業生のうち8人がPESに入所して仕事をしてくれました。ありがたいことで、今も一人は現役です。

これほど多くの支援を前にすると「自分は何の努